

港区における 子どもと子育て家庭の生活と意識に関する 調査報告書

概要版

平成 26 年（2014 年） 2 月

港区政策創造研究所
（企画経営部）

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

目次

第1章 調査の概要

1 調査の目的と概要

- (1) 調査の目的…………… 1
- (2) 調査の概要…………… 1

2 港区の地域概況

- (1) 港区の位置と地勢…………… 2
- (2) 港区の人口…………… 2

3 港区の子どもの状況

- (1) 年少人口の推移…………… 3
- (2) 港区の出生の状況…………… 3

第2章 調査結果の概要

1 未就学児のいる世帯 第1調査（調査票Ⅰ）

- 基礎データ…………… 4
- どのような子育てをしているの？誰と子育てをしているの？…………… 5
- 調査から見た主な課題…………… 6

2 小学生のいる世帯 第2調査（調査票Ⅱ）

- 基礎データ…………… 8
- 親から見た子どもの一日…………… 9
- 親の子育て環境は？…………… 9
- 調査から見た主な課題…………… 10

3 中学2年生のいる世帯 第2調査（調査票Ⅱ）

- 基礎データ…………… 12
- 親から見た子どもの一日…………… 13
- 親の子育て環境は？…………… 13
- 調査から見た主な課題…………… 14

4 小学4年生・中学2年生本人 第3調査（調査票Ⅲ）

- 基礎データ…………… 16
- 港区の小・中学生の様子…………… 17
- 自分専用の持ちものは？…………… 17
- 友だちとの関係は？…………… 18
- 参加している地域行事は？…………… 19
- 調査から見た主な課題…………… 19

5 小学4年生・中学2年生それぞれの保護者と本人との回答比較

第2調査（調査票Ⅱ）・第3調査（調査票Ⅲ）

- 仲の良い友人についての回答比較…………… 20
- 放課後の遊びの場所についての回答比較…………… 20
- 子どもが保護者に悩みを話すかについての回答比較…………… 21
- 親子の会話の時間についての回答比較…………… 21

1 調査の目的と概要

(1) 調査の目的

我が国は人口減少社会に入ったと言われています。子どもの数が減少する一方で、高齢者人口が増加していく傾向にあります。

そうした中であっても、港区については、人口が増加傾向にあり、年少人口数も増えています。

今回の調査は港区に住み、子どもを育てる家庭そして子ども自身の生活と意識を明らかにし、今後の施策を検討するための基礎資料を得ることを目的として実施しました。

(2) 調査の概要

調査主体は、港区政策創造研究所です。本調査は、3つの調査からなり、その対象者や抽出人数、回収率などは表1のとおりです。

表1 調査の種類と対象者、抽出人数、有効回収数、有効回収率

調査の種類と対象者		抽出人数	抽出率	有効回収数	有効回収率
全体		11,729 人	—	5,579 人	47.6%
	第1調査(調査票I) 未就学児の親※	4,310 人	半数	2,361 人	54.8%
	第2調査(調査票II) 小・中学生の親	4,410 人	—	2,067 人	46.9%
	小学1～6年生の親※	3,018 人	半数	1,505 人	49.9%
	中学2年生の親	1,392 人	全員	562 人	40.4%
	第3調査(調査票III) 小・中学生本人	3,009 人	全員	1,151 人	38.3%
	小学4年生	1,599 人	全員	621 人	38.8%
	中学2年生	1,410 人	全員	530 人	37.6%

なお、子ども自身への調査として、小学4年生と中学2年生を選んだ理由は次のとおりです。

まず、小学4年生の選定理由は、自筆が可能な学年であること、5・6年生は受験を控えていることから回答率が低くなることが予想され、また勉強時間などにも偏りがかかると考えたからです。

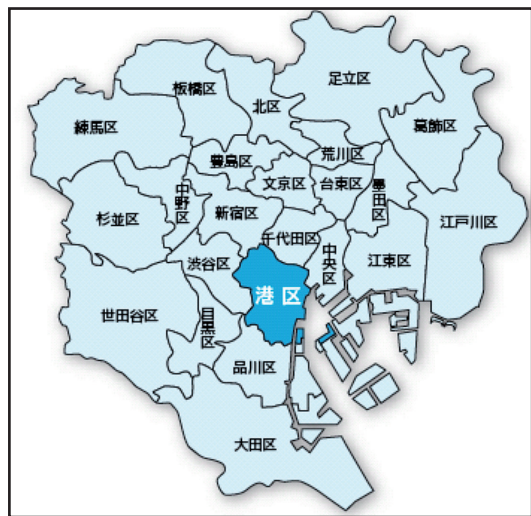
また、中学2年生の選定理由は、中学1年生は入学直後で、中学生としてまだ十分な学校生活を送ることが出来ていないこと、また中学3年生については受験を控えていることから回答率が低くなることが予想され、また勉強時間などにも偏りがかかると考えたからです。

2 港区の地域概況

(1) 港区の位置と地勢

港区は、23区のほぼ中央に位置して、東は東京港に面し、その北端でわずかに中央区に接し、北は千代田区と新宿区に、西は渋谷区、南は品川区、東は江東区にそれぞれ隣接している（図1-1）。港区の東端は台場2丁目（東経139度47分）、西端は北青山3丁目（東経139度42分）で、南端は高輪4丁目（北緯35度37分）、北端は元赤坂2丁目（北緯35度41分）である。南北の距離は約6.5km、東西は約6.6kmである。

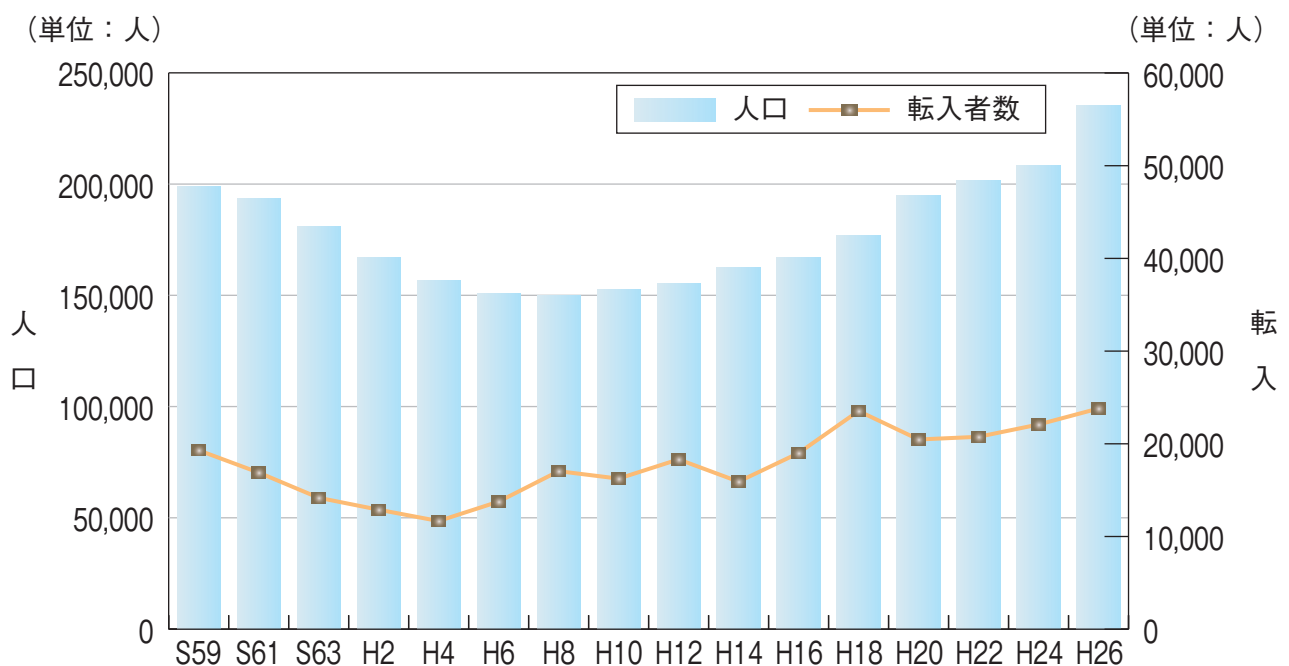
図1-1 港区の位置



(2) 港区の人口

平成26年1月1日現在の住民基本台帳によると、港区の人口は、235,337人です（図1-2）。人口は、昭和59年から減少し続け、平成7年4月には、15万人を割り込みましたが、近年の芝浦港南地域での人口増加に伴い、平成21年5月には四半世紀ぶりに20万人台を回復しました。なお、転入者数も昭和59年から減少し続けましたが、平成4年以降に増加傾向に転じ、現在は毎年2万人超が転入するなど、区民の1割近くが毎年入れ替わっていることとなります。

図1-2 港区の人口、転入者数



(資料) 住民基本台帳、行政資料集から作成

※平成26年1月1日現在の人口は外国人を含んでいます。

※平成26年に記載のある転入は、平成25年の転入者数です。

転入はH25年の値

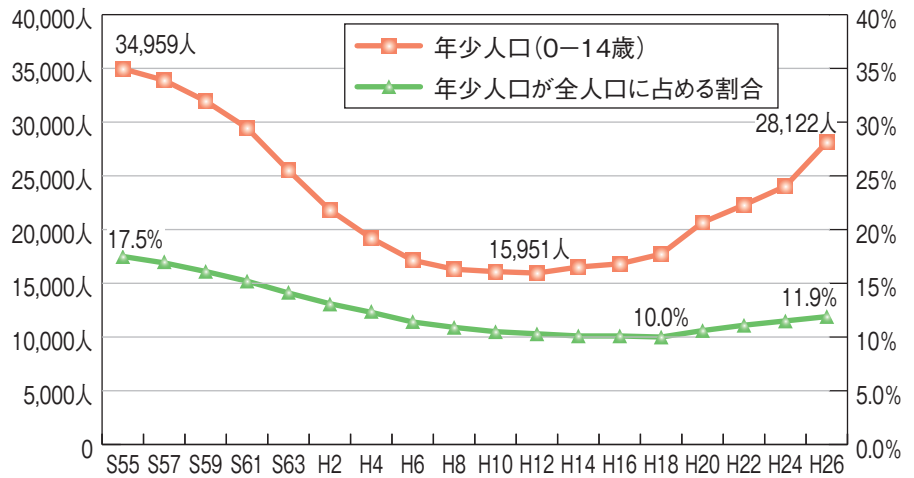
3 港区の子どもの状況

(1) 年少人口の推移

昭和55年当時34,959人であった港区の14歳以下の年少人口は、20年後の平成12年には15,951人と半分以上に減少しましたが、平成26年1月1日現在では、28,122人と増加傾向にあります。

また全人口に占める年少人口の割合は、昭和55年当時では17.5%でしたが、平成10年の10.0%を下限に平成26年1月現在は11.9%と緩やかな増加傾向となっています(図1-3)。

図1-3 年少人口(0-14歳人口)と全人口に占める割合の推移



※平成26年1月1日現在の人口は外国人を含んでいます。

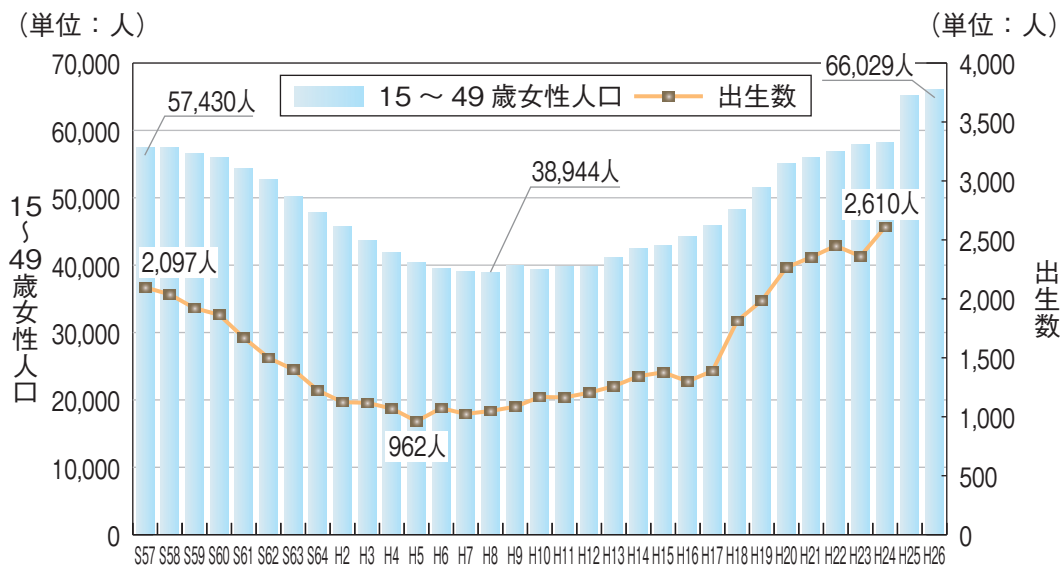
(2) 港区の出生の状況

15~49歳女性人口の減少に合わせ出生数も減少していましたが、この女性人口が増加に転じると出生数も増加傾向となっています。

昭和57年当時57,430人であった15~49歳の女性人口は、14年後の平成8年には38,944人と7割弱まで減少しました。それ以降は、ほぼ毎年増加し、平成26年1月1日現在では66,029人となっています。

一方、出生数も15~49歳女性人口と同様、昭和57年当時から減少を続け、11年後の平成5年には962人と約45%にまで減少しました。しかしそれ以降は、増加傾向にあり、平成24年には2,610人まで上昇しています。なお、平成24年の合計特殊出生率は1.27です。

図1-4 出生数と15~49歳女性人口の推移



(資料) 住民基本台帳、行政資料集から作成

※15~49歳女性人口は、各年1月1日現在の人数。出生数は、各年1月から12月に生まれた人数。

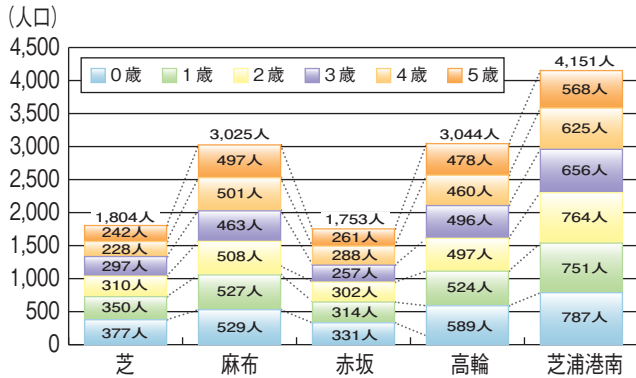
※平成25年と平成26年の人口は外国人を含んでいます。

第2章 調査結果の概要

1 未就学児のいる世帯 第1調査 (調査票 I)

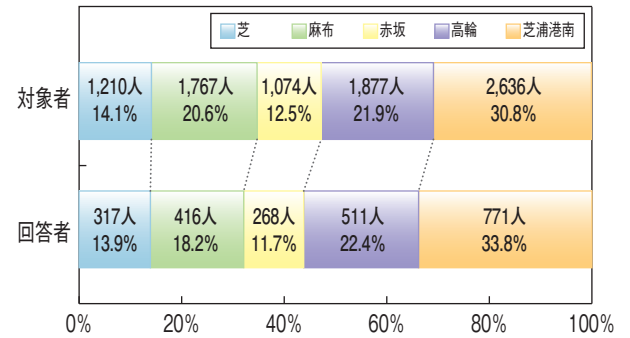
基礎データ

1 未就学児の人数



調査時点である、平成25年5月1日現在の未就学児の人数は、芝浦港南地区が最も多く4,000人を超え、麻布・高輪地区ではおよそ3,000人、芝・赤坂地区では1,800人前後である。

2 地区ごとの調査対象者数と回答者数



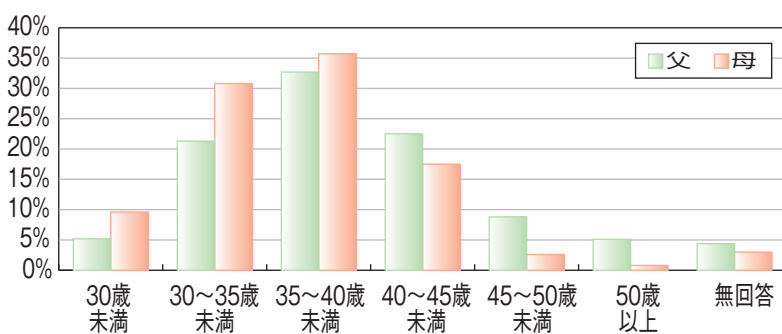
抽出時点である平成25年5月2日現在の調査対象者の地区別割合と回答者の地区別割合を比較すると、その分布は大きくは変わらないものの、麻布地区でやや回答者が少なく、芝浦港南地区でやや回答者が多い。

3 居住年数

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		10年		11年以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	66	20.8%	61	19.2%	64	20.2%	36	11.4%	37	11.7%	10	3.2%	12	3.8%	6	1.9%	1	0.3%	12	3.8%	12	3.8%	317	100.0%
麻布地区	107	26.2%	78	19.1%	64	15.6%	44	10.8%	35	8.6%	17	4.2%	12	2.9%	6	1.5%	3	0.7%	14	3.4%	29	7.1%	409	100.0%
赤坂地区	70	26.6%	57	21.7%	31	11.8%	23	8.7%	19	7.2%	11	4.2%	11	4.2%	3	1.1%	6	2.3%	9	3.4%	23	8.7%	263	100.0%
高輪地区	128	25.1%	82	16.1%	90	17.7%	36	7.1%	48	9.4%	32	6.3%	26	5.1%	14	2.8%	7	1.4%	14	2.8%	32	6.3%	509	100.0%
芝浦港南地区	117	15.2%	99	12.9%	76	9.9%	97	12.6%	142	18.5%	109	14.2%	64	8.3%	28	3.6%	6	0.8%	17	2.2%	14	1.8%	769	100.0%
計	488	21.5%	377	16.6%	325	14.3%	236	10.4%	281	12.4%	179	7.9%	125	5.5%	57	2.5%	23	1.0%	66	2.9%	110	4.9%	2,267	100.0%

回答者の居住年数は芝・麻布・赤坂・高輪地区は1～3年に集中、芝浦港南地区は5、6年に集中している。

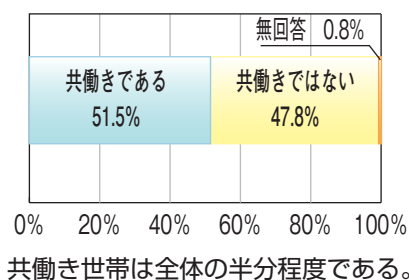
4 父母の年齢



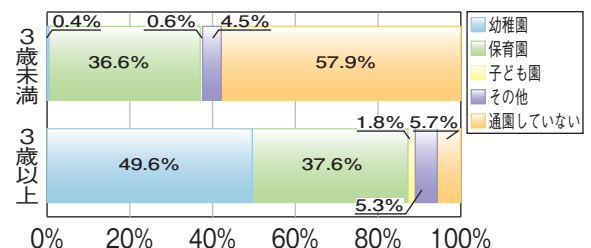
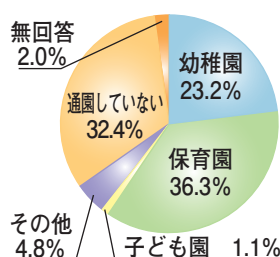
保護者の年齢は、30～45歳未満の間に集中している。

その中でも最も多い年齢階層は、35～40歳未満である。全体的には、父親よりも母親の方が、年齢が若い層に分布している。

5 共働きの割合

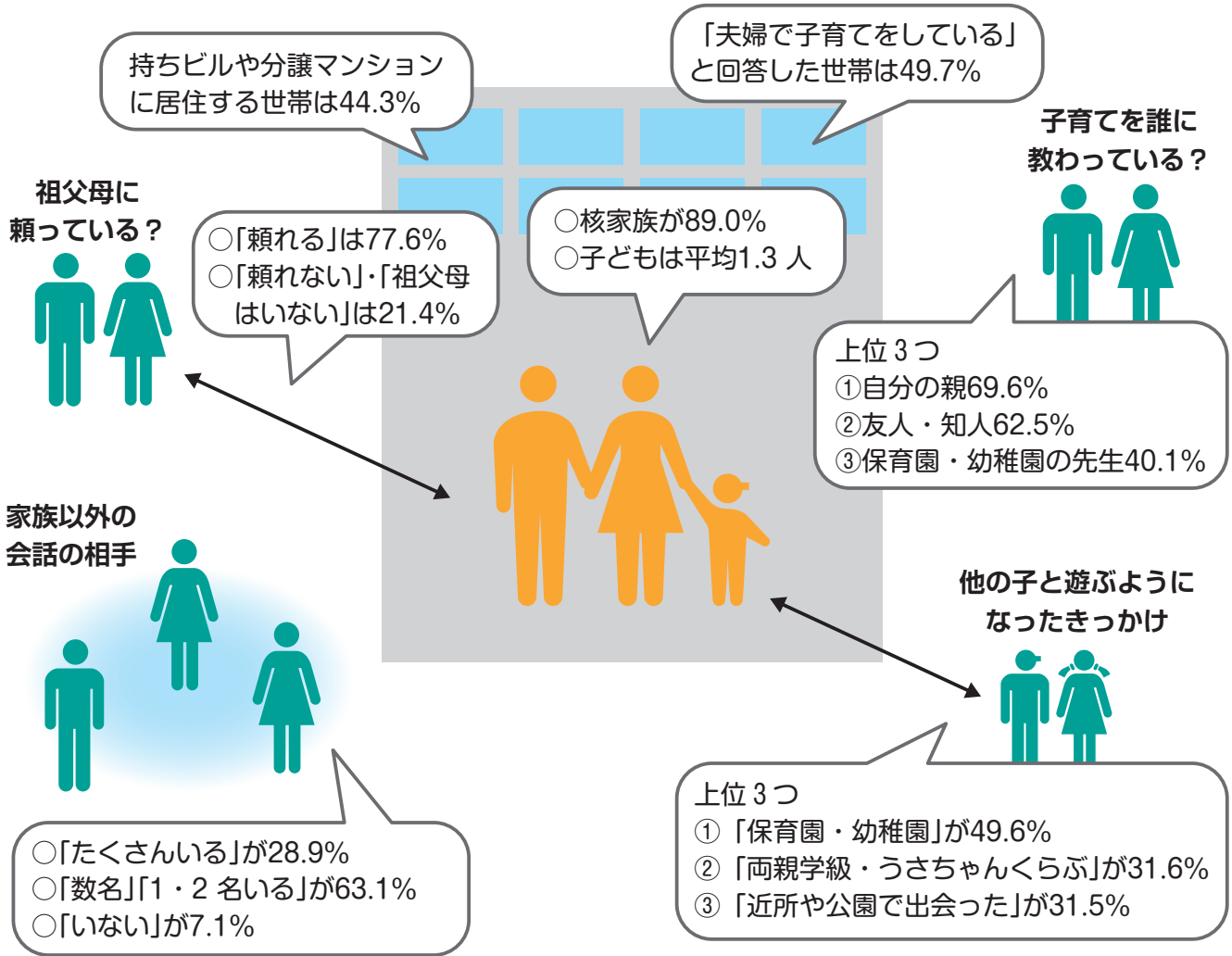


6 通園先



通園先は、幼稚園・保育園・通園していないの大きく3つに分かれる。3歳未満児は6割弱が通園していない。3歳以上は半数が幼稚園、4割弱が保育園に通園している。

どのような子育てをしているの？ 誰と子育てをしているの？



調査結果の概要
1 未就学児のいる世帯

子育てを楽しんでいる人は8割半

○子育てを「十分に楽しんでいる」と「まあまあ楽しんでいる」を合わせて85.4%の人が、子育てを楽しんでいる。

- この1年間に、家族でレジャーに出かけた人は、81.1%。
- PTAや健康づくり、趣味の会などは、母の方が父より参加をし、反対に町会・自治会活動は父の方が参加している。
- 家族以外に子育てについて話し合う相手がたくさん・数名いる人は78.0%

子育ての悩み

- 子どもについての悩みの上位3つ
①「保育園・幼稚園」が38.5%
②「しつけ」が35.5%
③「学習・進路」が34.5%
悩みはあってもその相談先のない人が3~6割に上る。
- 他の子どもと比較をして気になることがある人は37.0%に上る。

ふだんこのようなことがありますか？

- 「イライラする」64.8%
- 「子どもを大声で怒る」43.3%
- 「子どもに衝動的に手を上げる」10.5%
- 「自分の子育てに不安を感じる」38.0%

子育ての意識や価値観は？

- 「子どもが小さいうちは母親が育児に専念するべき」と思う人は50.3%
- 「育児は、父母（男女）が対等にするべき」と思う人は57.2%

課題

〔居住年数が少ない、子どもが幼いといった、自ら動きづらい親の社会的ネットワーク形成をどのように支援するか〕

現状

I 親族を含め誰にも頼れない世帯が存在

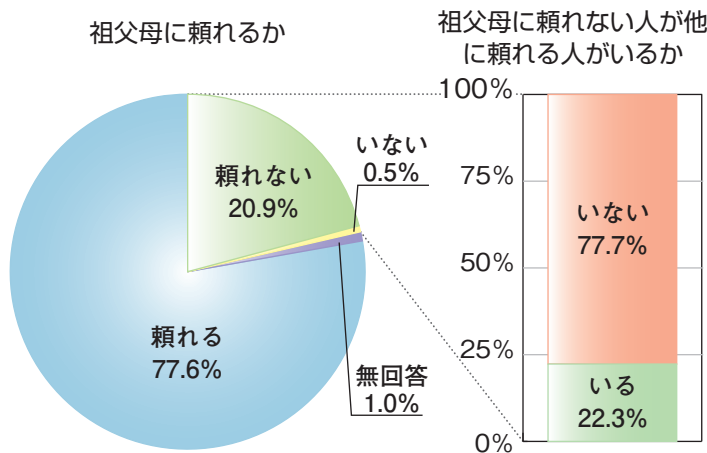
- ・現住所の居住年数が1年以下の世帯の同居していない祖父母の居住地は約8割が都外である。
- ・祖父母に頼れない世帯の7割半が、親族もそれ以外の支援者もない。【図-1】

II 子育てネットワークのある世帯とない世帯の存在

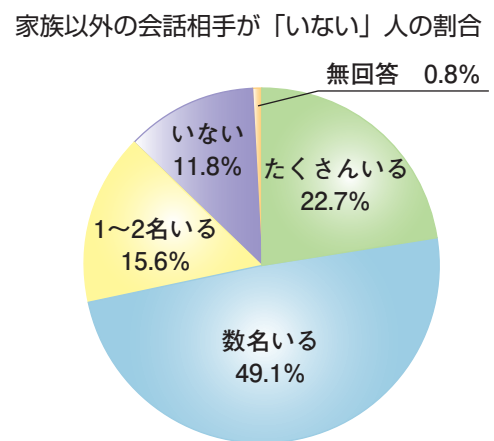
- ・居住年数が1年以下の世帯は、家族以外に会話をする相手が「いない(11.8%)」【図-2】
- ・近所で子ども同士を遊ばせる頻度が「ほとんどない(42.0%)」【図-3】
- ・子どもを預け合う相手が「いない(75.5%)」
- ・母親は地域活動に「参加していない(64.0%)」【図-4】

1 未就学児のいる世帯
調査結果の概要

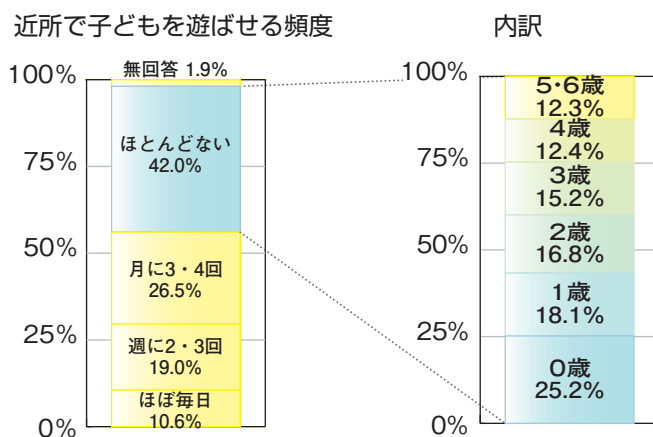
【図-1】



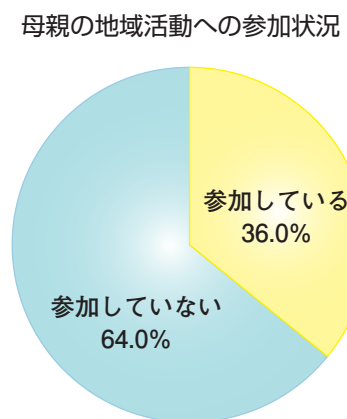
【図-2】



【図-3】



【図-4】



近所で他の子どもと遊ばせることが「ほとんどない」子どもは、25.2%が0歳児

主な課題

課題

〔子育てに不安を持つ親に対していかに地域での子育てを根付かせていくか〕

現状

I 子育てに不安を抱えている親の存在

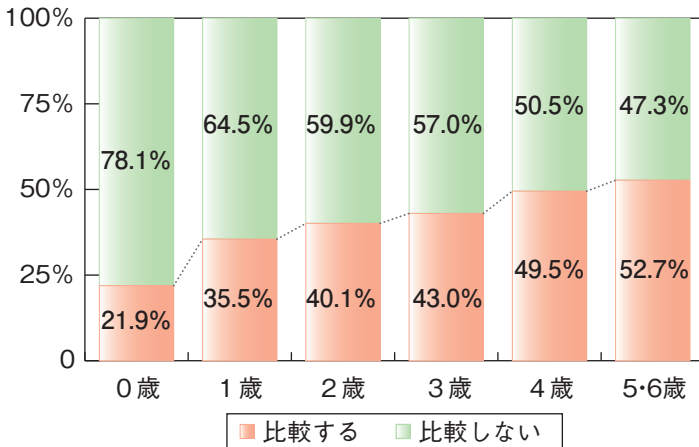
- ・他の子とを比較して気になる母親は、子の年齢が上がるに連れて増加する。【図-5】
- ・衝動的に手をあげる母親は、子の人数が一人より二人以上いる方が高い。【図-6】
- ・「子育てに不安を感じる」母親は、働いている母親（36.0%）よりも働いていない母親（50.1%）の方がより高い。
- ・「学習・進路」の悩みを抱えている母親は、悩みを抱えていない母親より習い事などにかかる総額も高くなる傾向にある。【図-7】

II ネットワークのある親は、地域や行政を通して形成している人が多い

- ・子どもの年齢が低い母親のネットワークは、「子ども家庭支援センター・子育てひろば」「うさちゃんくらぶ」「近所・公園」が多い。【図-8】
- ・子育てを教わる相手（複数回答）は、「自分の親（69.6%）」「友人・知人（62.5%）」次いで「保育園・幼稚園の先生（40.1%）」である。

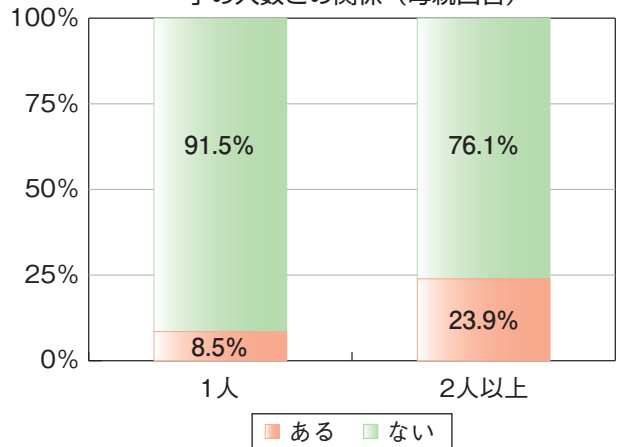
【図-5】

他子比較と子の年齢の関係（母親回答）



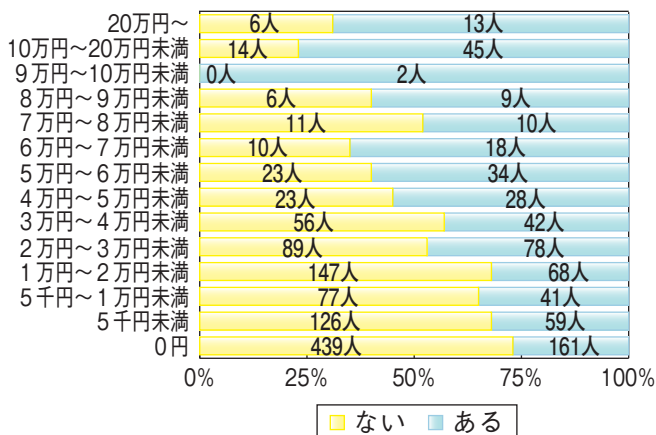
【図-6】

衝動的に手をあげるか否かと子の人数との関係（母親回答）



【図-7】

学習・進路の悩みと習い事の総額（母親回答）



【図-8】

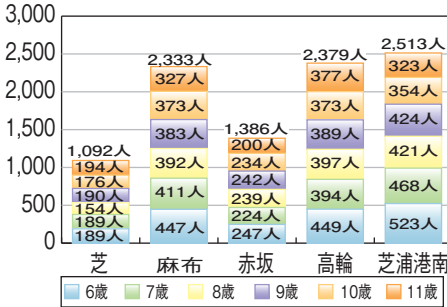
子の年齢と出会ったきっかけ（母親回答）

年齢	子どもが生まれる前から	両親学級やうさちゃんくらぶなど	産院・病院が一緒	近所や公園などで出会った	保育園や幼稚園	子家センター子育てひろば	その他
0歳	29.7%	70.3%	26.6%	13.3%	5.5%	43.8%	6.3%
1歳	30.6%	43.3%	19.1%	35.0%	10.8%	47.1%	10.8%
2歳	23.2%	30.9%	16.0%	41.4%	26.5%	40.9%	12.7%
3歳	19.0%	30.8%	8.7%	30.8%	64.1%	27.2%	9.2%
4歳	14.1%	18.6%	7.3%	33.3%	78.0%	13.6%	11.3%
5・6歳	12.5%	21.0%	5.1%	27.8%	86.4%	10.2%	8.0%

2 小学生のいる世帯 第2調査 (調査票Ⅱ)

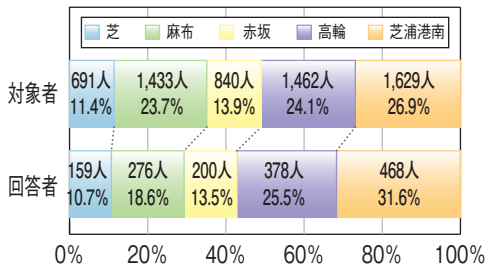
基礎データ

1 小学生 (6～11歳) の人口

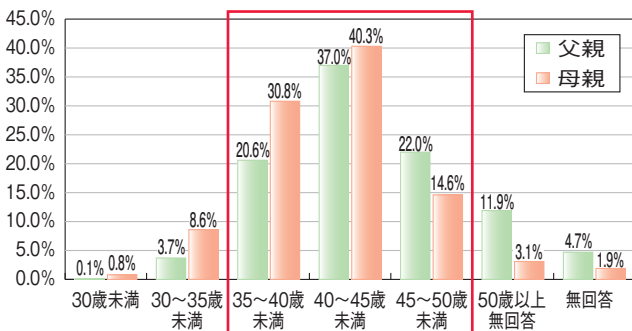


調査時点である、平成25年5月1日現在の小学生の人数が最も多いのは芝浦港南地区で、最も少ないのは芝地区である。

2 地区ごとの調査対象者数と回答者数

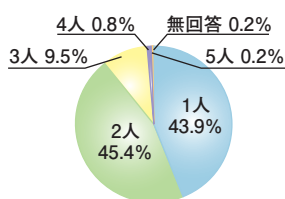


4 父母の年齢



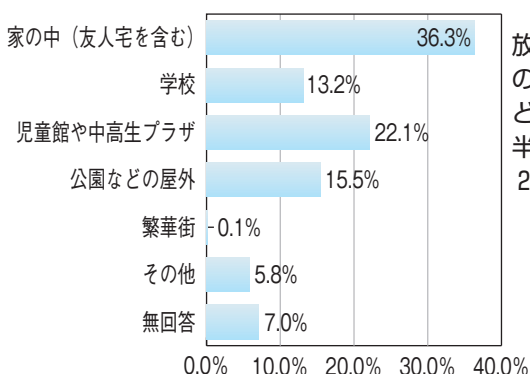
保護者の年齢は、35～50歳未満の間に集中している。その中でも最も多い年齢階層は、40～45歳未満である。

6 きょうだいの数



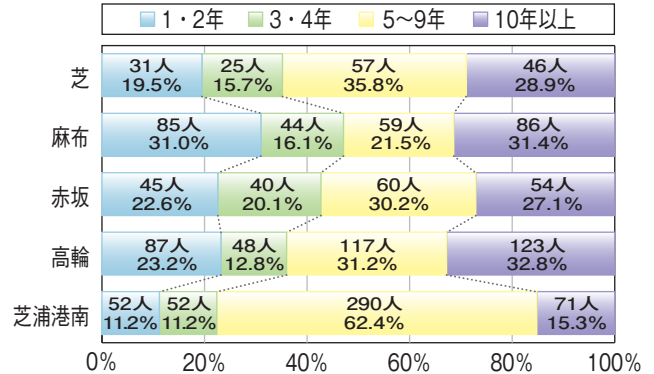
きょうだいは、一人っ子が43.9%、2人きょうだいが45.4%で多数を占めた。

8 放課後の遊び場所



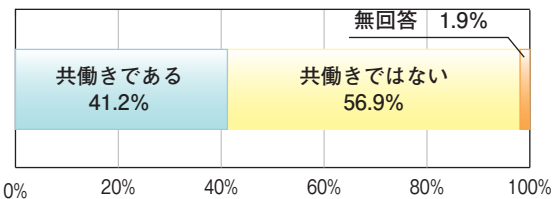
放課後は、家中で遊ぶ子どもが3割半、児童館が2割強。

3 居住年数



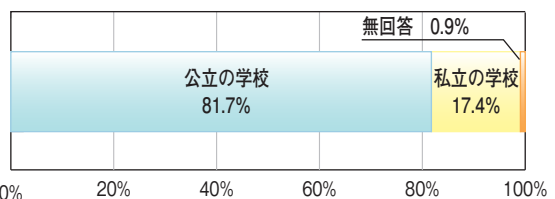
抽出時点である平成25年5月2日現在の居住年数は、芝地区が5年以上が6割半。麻布地区は1・2年が3割、5年以上が5割。赤坂地区は1・2年が2割強、5年以上が6割弱。高輪地区は、1・2年が2割強、5年以上が6割半。芝浦港南地区は5～9年に6割が集中している。

5 共働きの割合



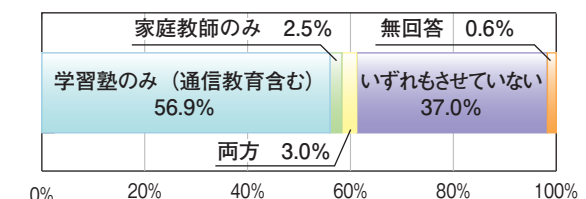
共働きの世帯は41.2%である。

7 学校の種類



公立の学校に通う小学生は81.7%。

9 塾や家庭教師



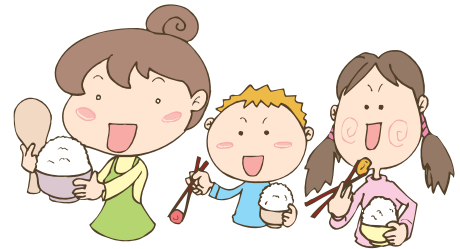
学習塾に通っている小学生は56.9%。

親から見た子どもの一日



各設問の中で、最も回答の多かった選択肢から、子どもの一日を概観します。

- 朝はたいてい親が起こしている (47.8%)
- 朝食は毎日とってから学校に行く (96.5%)
- 学校へは毎日登校している (97.9%)
- 公立小学校へは 8 割強、私立小学校へは 2 割弱
- 仲の良い友だちがいると思う (94.7%)
- 授業は理解している (47.4%)
- 放課後に子どもが何をして遊んでいるのかよく知っている (49.5%)
- 放課後の遊び場所は友人宅も含め家の中が最も多い (36.3%)
- 地域活動に参加している (38.3%)
- 通信教育を含む学習塾に通っている (56.9%)
- 夕食は家族の誰かと一緒に食べる場合が多い (62.1%)
- 家族は子どもの勉強をよく見ている (62.3%)
- その日の出来事や悩みを親によく話をする (50.2%)
- 親子で会話は十分している (61.5%)



親の子育て環境は？

子育てで悩んでいることは？

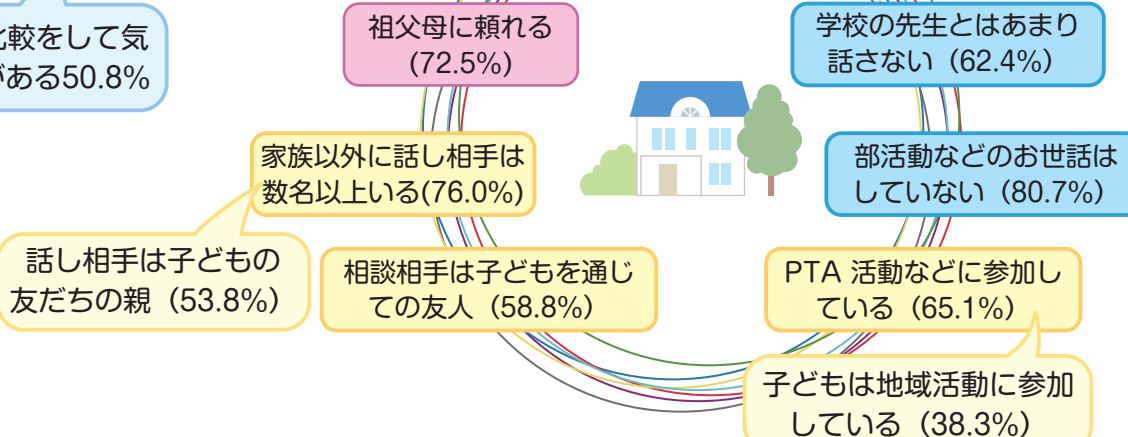


他の子との比較をして気になることがある50.8%

家族で旅行やレジャーに行く家庭は91.6%。

「親子の会話は十分だ」と思う親は61.5%を占める。

親の子育てのネットワーク



課題

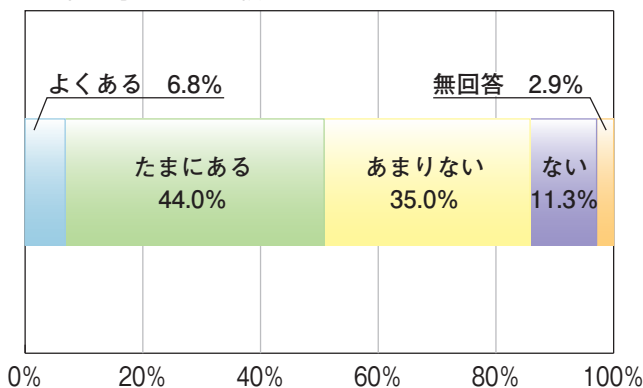
【悩み・不安の解決手段を持たない親がいる】

現状

- I 悩み・不安の背景に、他児との比較で自分自身を追い詰めることが挙げられる
 - ・他児との比較をして気になることがある親が50.8%いる。【図-1】
 - ・他児との比較により悩んでいる親は、悩んでいない親よりも「授業の理解ができていない」【図-2】や「学校生活、友人関係、学習・進路、発達、しつけの悩み」などで高い回答になっている。
- II 悩み・不安の相談先を持たない親が存在
 - ・学習・進路の悩みは、世帯の37.3%が持っているが、相談先は29.5%がないと回答している。【図-3】
 - ・子育てに関する相談先の充実を希望する親がいる。

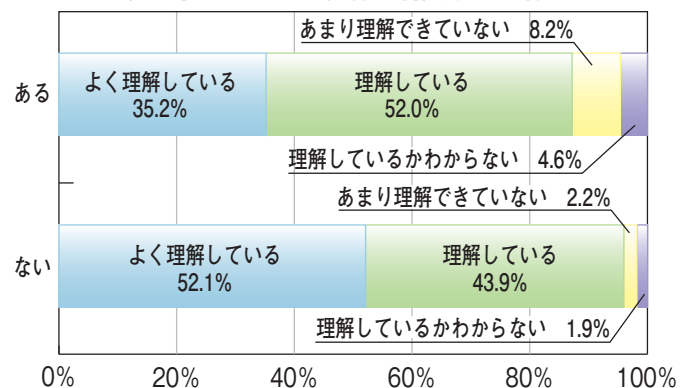
【図-1】

他の子どもと比較して気になることがあるか



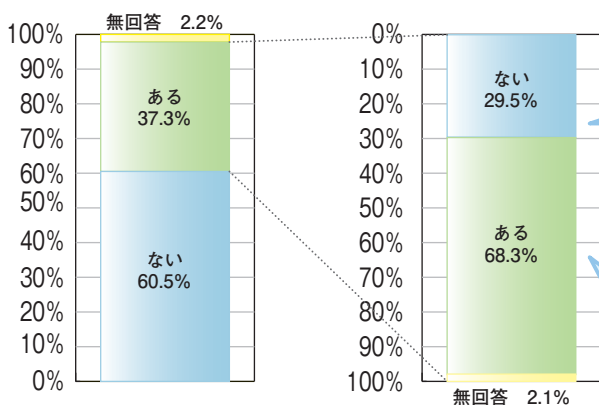
【図-2】

他の子どもとの比較有無別授業の理解度



【図-3】

学習・進路の悩みと相談先の有無



○子どもに関する悩み相談全般を受け付けてくださる、統合された窓口があると、相談もしやすく、かつ分かりやすいので出向きやすい。(低学年母)

○就学、進学相談をどこにいつすればよいのか分かりにくい。実際に相談する時には、なかなか話が進まなかったり、がっかりすることも多い。入学、進学してから「どうしましょう」では時間の空費。(高学年母)

主な課題

課題

【家庭環境の違いにより子の生活に差が生じている】

現状

I 家庭の環境により異なる教育環境

- ・所得が高いほど私立学校に通う子どもの割合が増える。【図-4】
- ・公立学校、所得が限られる世帯では、習い事にもっとお金を掛けたいと感じている割合が高い。【図-5】

II 地域と繋がりのない子どもたちの存在

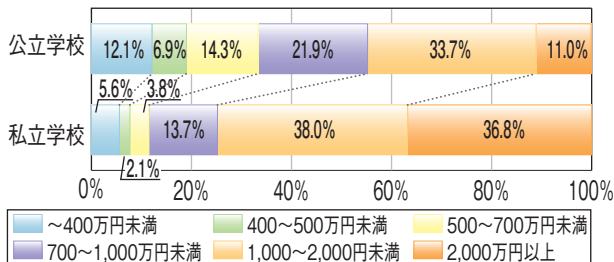
- ・私立学校、所得が高いほど地域活動に参加しない傾向がある。【図-6】
- ・放課後に地域の施設・公園で遊ぶのは公立学校の児童が多い傾向にある。【図-7】

- 家族で地域のボランティアなどに参加し、地域の方々と親しくなる場を教えて欲しいです。(小学生母)
- 公立のお子さんばかりで中に入りにくい、下校時間が遅く間に合わない、など全く参加出来ず、地域に親しむことが難しい。(小学生母)

- 児童館での催しなどの情報が私学へ通っているとなかなか入らず、利用しづらい。(小学生母)

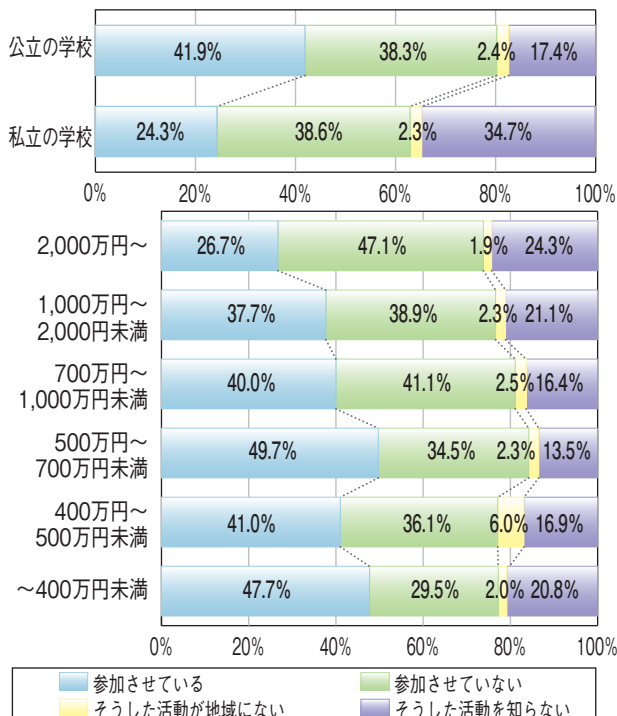
【図-4】

年間収入と学校の種類



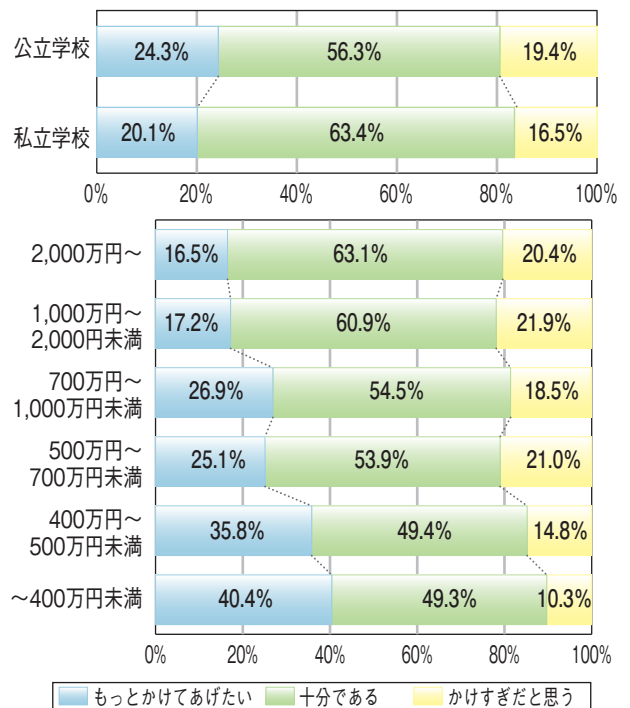
【図-6】

学校の種類／年間収入と地域活動への参加



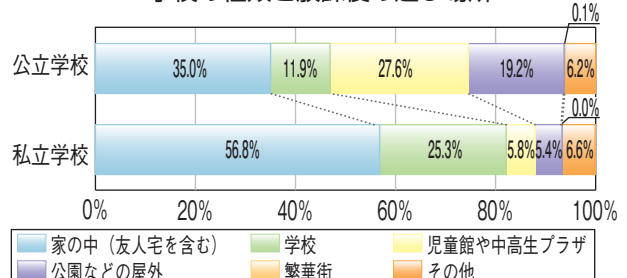
【図-5】

学校の種類／年間収入と習い事費用の評価



【図-7】

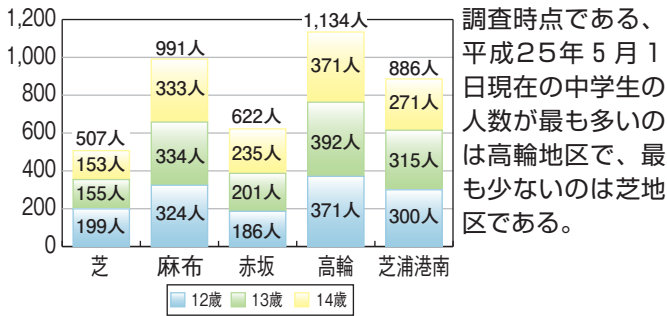
学校の種類と放課後の遊び場所



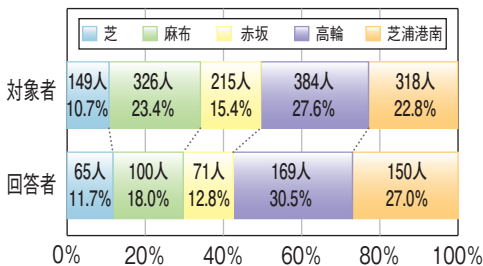
3 中学2年生のいる世帯 第2調査 (調査票Ⅱ)

基礎データ

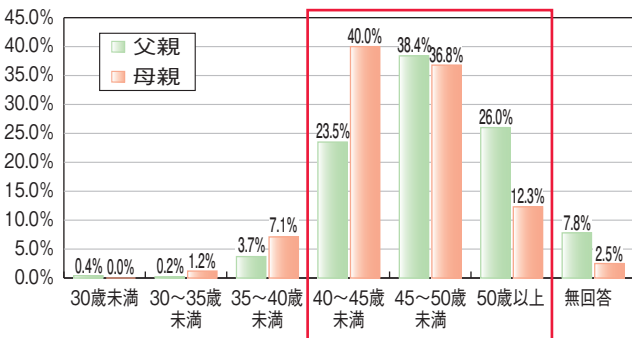
1 中学生 (12～14歳) の人口



2 地区ごとの調査対象者数と回答者数

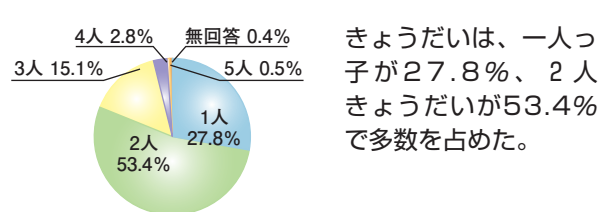


4 父母の年齢

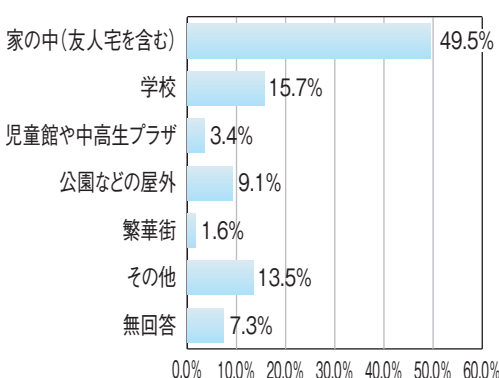


保護者の年齢は、40～50歳以上の間に集中している。その中でも最も多い年齢階層は、45～50歳未満である。

6 きょうだいの数

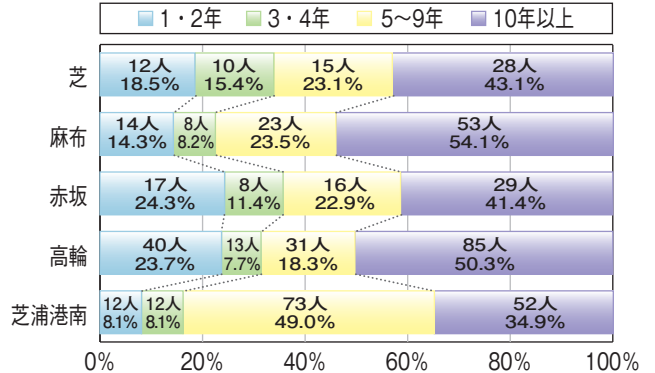


8 放課後の遊び場所



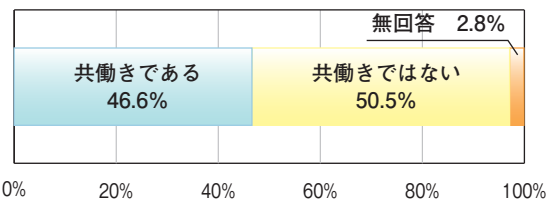
放課後は、家の中で遊ぶ子どもが5割弱、学校が1割半であった。

3 居住年数



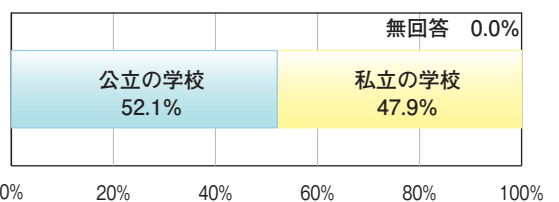
抽出時点である平成25年5月2日現在の居住年数は、芝地区が5年以上が6割半。麻布地区は5年以上が8割弱。赤坂地区は1・2年が2割半、5年以上が6割半。高輪地区は、1・2年が2割強、5年以上が7割弱。芝浦港南地区は5年以上に8割強が集中している。

5 共働きの割合



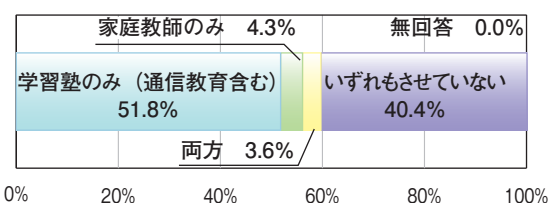
共働きと共働きでない世帯の割合は半々である。

7 学校の種類



公立学校と私立学校に通う中学生の割合はほぼ半々である。

9 塾や家庭教師



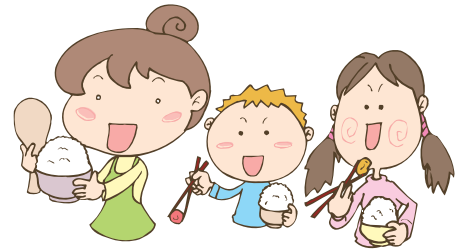
学習塾に通っている中学生は51.8%である。一方学習塾も家庭教師の指導も受けていない世帯は40.4%であった。

親から見た子どもの一日



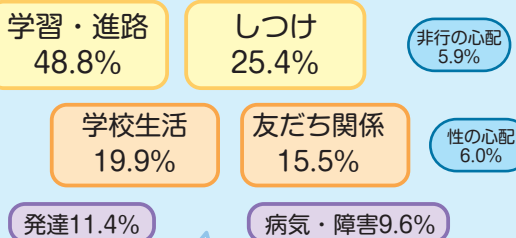
各設問の中で、最も回答の多かった選択肢から、子どもの一日を概観します。

- 朝はたいてい親が起こしている (49.5%)
- 朝食は毎日とってから学校に行く (88.1%)
- 学校へは毎日登校している (97.7%)
- 公立中学校へは5割強、私立中学校へは5割弱
- 仲の良い友だちがいると思う (94.8%)
- 授業は理解している (53.6%)
- 放課後に子どもが何をして遊んでいるのか知っている (53.9%)
- 放課後の遊び場所は友人宅も含め家の中が最も多い (49.5%)
- 地域活動には参加していない (49.5%)
- 通信教育を含む学習塾に通っている (51.8%)
- 夕食は家族の誰かと一緒に食べる場合が多い (58.0%)
- 家族は子どもの勉強をたまに見ている (54.4%)
- その日の出来事や悩みを親によく話をする (50.4%)
- 親子で会話は十分している (64.9%)



親の子育て環境は？

子育てで悩んでいることは？



家族で旅行やレジャーに行く家庭は80.4%。

「親子の会話は十分だ」と思う親は64.9%を占める。

親の子育てのネットワーク

他の子との比較をして気になることがある44.3%

祖父母に頼れる (71.7%)

学校の先生とはあまり話さない (63.2%)

家族以外に話し相手は数名以上いる(75.3%)



部活動などのお世話はしていない (74.7%)

話し相手は子どもの友だちの親 (43.3%)

相談相手は子どもを通じての友人 (48.8%)

PTA 活動などに参加している (63.2%)

子どもは地域活動に参加している (25.6%)

課題

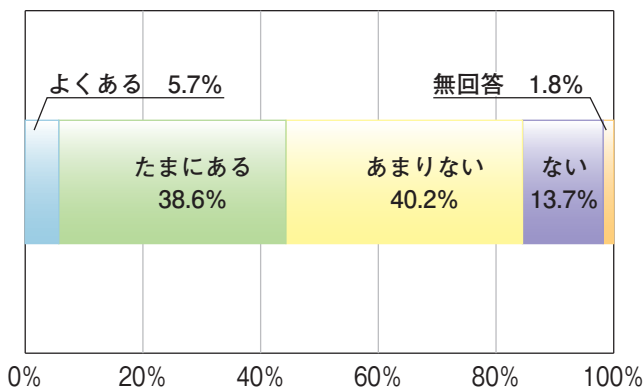
【悩み・不安の解決手段を持たない親がいる】

現状

- I 悩み・不安の背景に、他児との比較で自分自身を追い詰めることが挙げられる
- 他児との比較をして気になることがある親が44.3%いる。【図-1】
 - 他児との比較により悩んでいる親は、悩んでいない親よりも「授業の理解ができていない」や「学校生活、友人関係、学習・進路、発達、しつけの悩み」などで高い回答になっている。【図-2】
- II 悩み・不安の相談先を持たない親が存在
- 学習・進路の悩みは、世帯の48.8%が持っているが、相談先は29.2%がないと回答している。【図-3】
 - 子育てに関する相談先の充実を希望している。

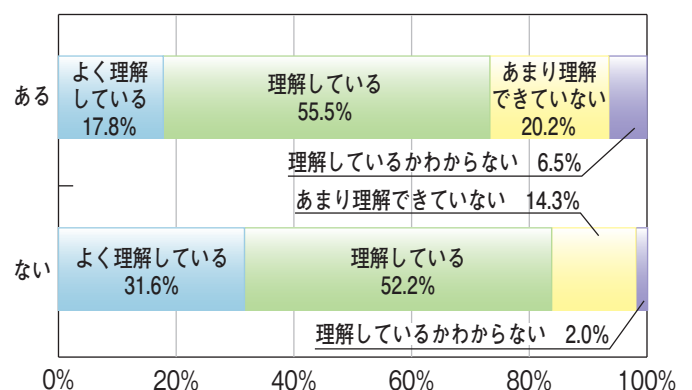
【図-1】

他の子どもと比較して気になることがあるか



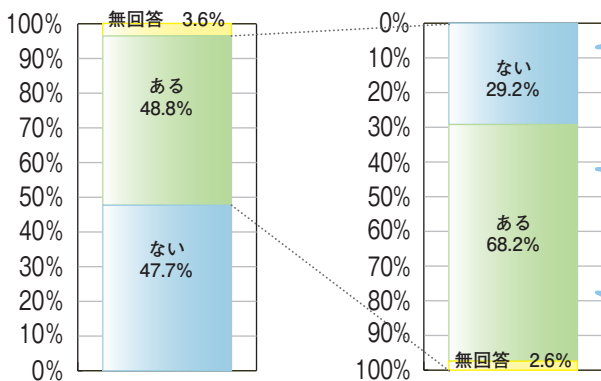
【図-2】

他の子どもとの比較有無別授業の理解度



【図-3】

学習・進路の悩みと相談先の有無



○学校の先生や相談機関を利用したくても、出来ずに困っています。ひとり親の場合、生活をささえている為、ゆっくり時間を取って区役所へ相談にも行けず、方法が見当たりません。どの様にすればいいのでしょうか？（中学生母）

○思春期の子どもに対する父親の勉強会などを考えて欲しい。（中学生母）

○子どもが小学生になったとたん、区のサポートが何もなくなる。乳幼児にはたくさんサポートがあるが、小学生～中学生にはない。相談をする為に手間がかかりすぎる。仕事があるので電話も来所も出来ない。メールで相談が出来ればと思う。（中学生母）

主な課題

課題

【家庭環境の違いにより子の生活に差が生じている】

現状

I 家庭の環境により異なる教育環境

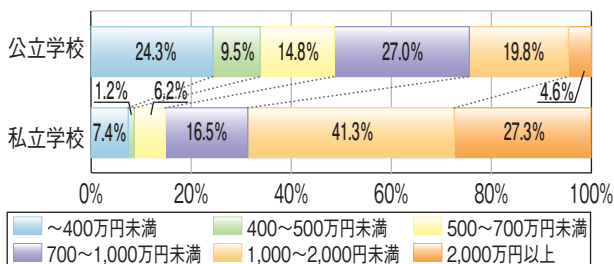
- ・所得が高いほど私立学校に通う子どもの割合が増える。【図-4】
- ・公立学校、所得が限られる世帯では、習い事にもっとお金を掛けたいと感じている割合が高い。【図-5】

II 地域と繋がりのない子どもたちの存在

- ・私立学校、所得が高いほど地域活動に参加しない傾向がある。【図-6】
- ・放課後に地域の施設・公園で遊ぶのは公立学校の生徒が多い傾向にある。【図-7】

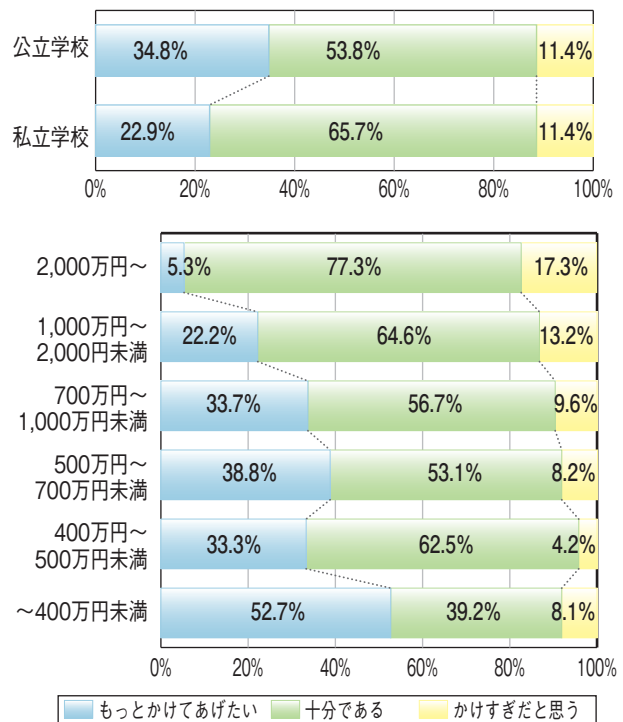
【図-4】

年間収入と学校の種類



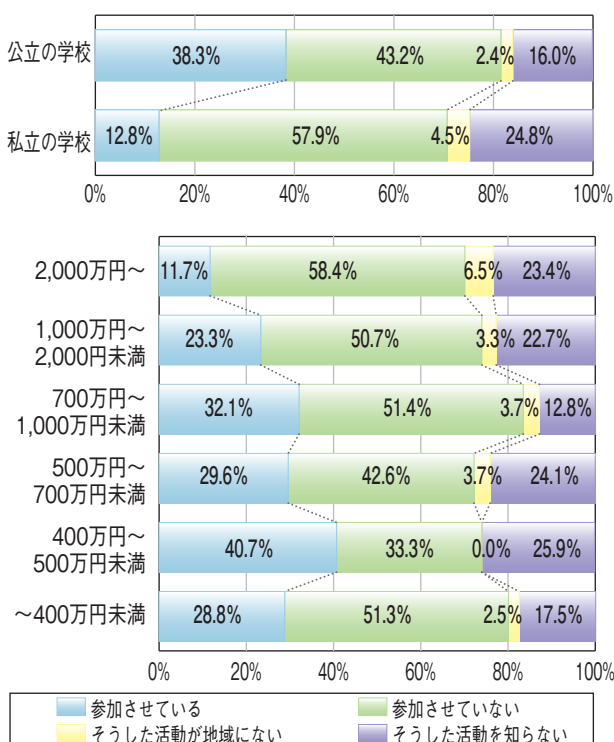
【図-5】

学校の種類／年間収入と習い事費用の評価



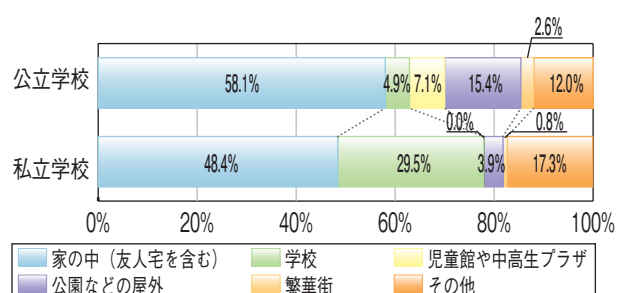
【図-6】

学校の種類／年間収入と地域活動への参加



【図-7】

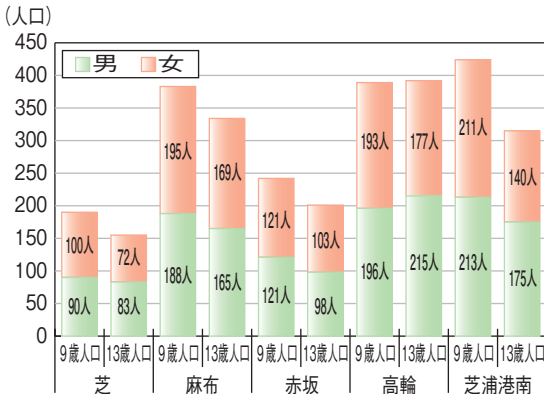
学校の種類と放課後の遊び場所



4 小学4年生・中学2年生本人 第3調査（調査票Ⅲ）

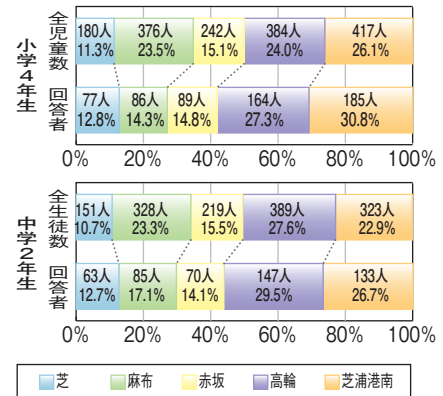
基礎データ

1 男女別の人口（H25.5.1 現在）

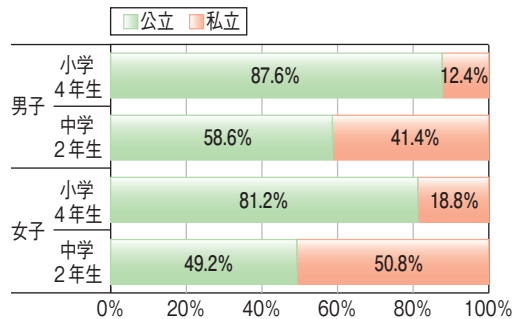


調査時点である、平成25年5月1日現在の9歳児人口が最も多いのが芝浦港南地区で、13歳人口が最も多いのが高輪地区である。

2 調査対象児童・生徒数（H25.5.2 現在）

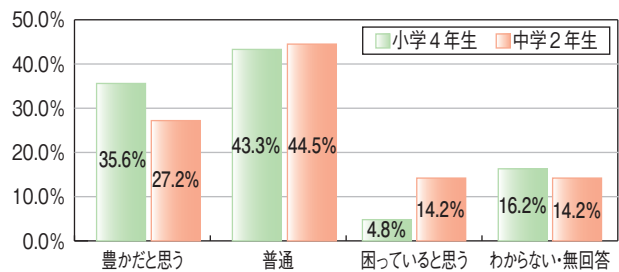


3 性別ごとの学校種別割合

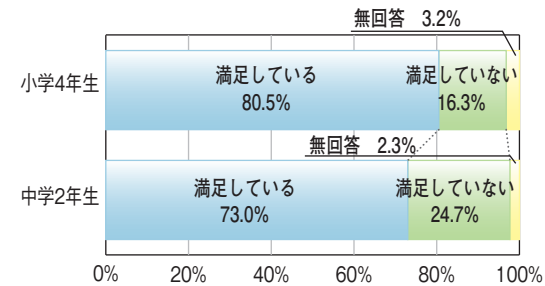


男女共に中学は私立に進学する子どもが増える。特に、女子の方が男子よりもその傾向が強い。

4 家庭の経済状況の感じ方

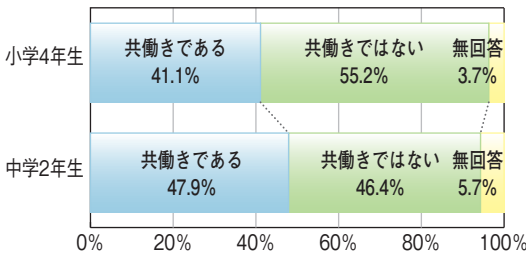


6 今の生活に満足しているか

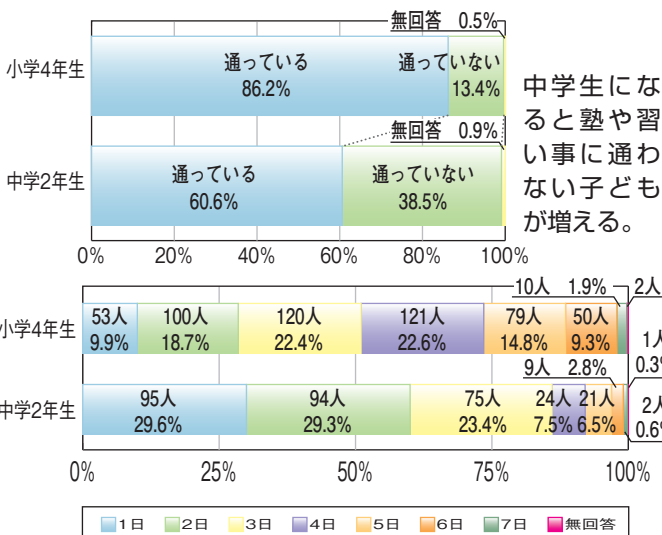


今の生活の満足度は、小学生の方が中学生よりも高い。

5 共働きの有無

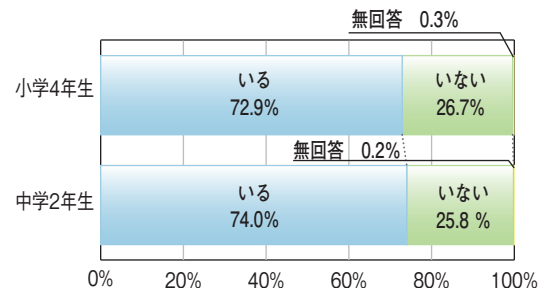


7 塾・習い事の有無



中学生になると塾や習い事に通わない子どもが増える。

8 きょうだいの有無



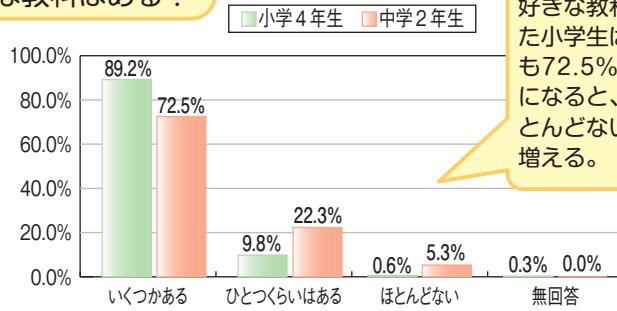
塾・習い事に通っている人のうち1週間に通っている日数が最も多いのが、小学生は4日で、中学生では1日であった。

港区の小・中学生の様子

学校生活

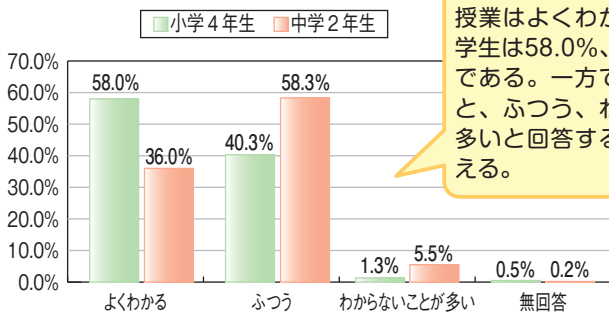


好きな教科はある？



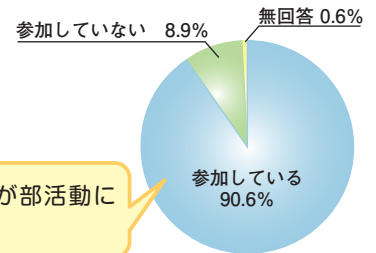
好きな教科がいくつかあると回答した小学生は89.2%と高く、中学生も72.5%である。一方で、中学生になると、ひとつくらいはある、ほとんどないと回答する生徒の割合が増える。

授業は理解できてる？



授業はよくわかると回答した小学生は58.0%、中学生は36.0%である。一方で、中学生になると、ふつう、わからないことが多いと回答する生徒の割合が増える。

部活動はしている？ (中学2年生のみの質問)

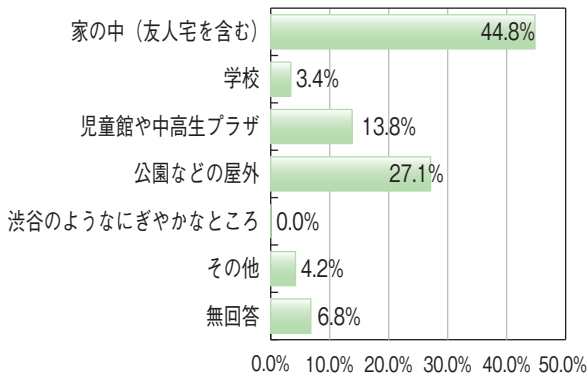


中学生の9割が部活動に参加している。

放課後の様子

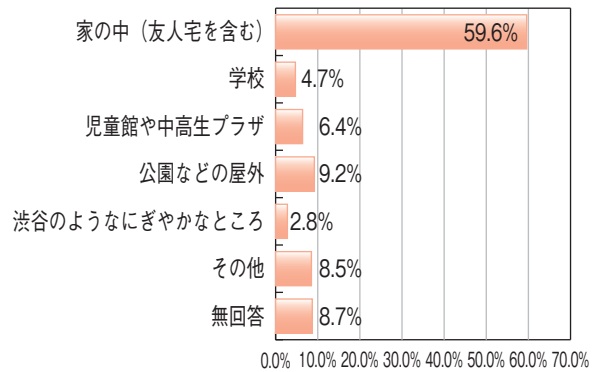
放課後の遊び場は？

小学4年生



放課後の遊び場で最も多いのが、家の中で44.8%、次いで公園などの屋外が27.1%、児童館や中高生プラザの13.8%と続く。

中学2年生

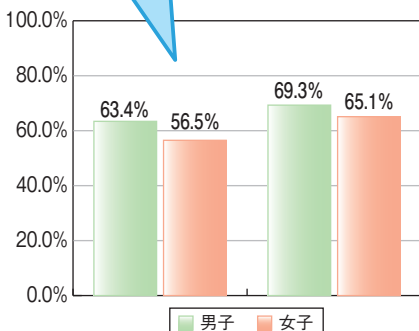


放課後の遊び場で最も多いのが、家の中で59.6%、次いで公園などの屋外が9.2%、児童館や中高生プラザの6.4%と続く。

自分専用の持ちものは？

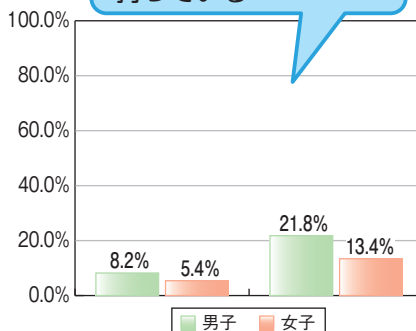
自分専用のゲーム機

男子の方が持っている



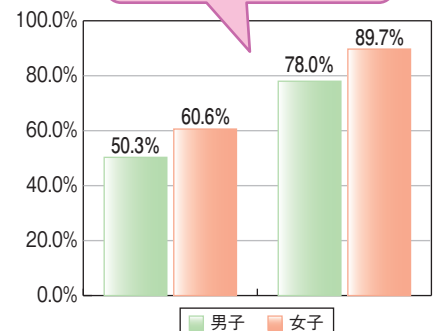
自分専用のパソコン

中学2年男子の2割が持っている



自分専用の携帯電話・スマートフォン

女子の方が持っている



友だちとの関係は？

男子

女子

小学生の友だち関係

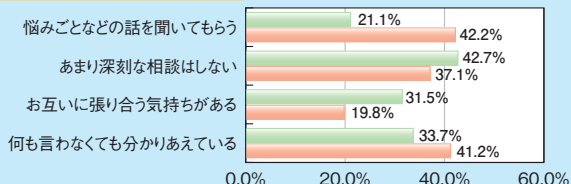
信頼できる友だちはどこで出会った友だち？

男子・女子ともに、「学校の友だち」が最も高く、男子の85.7%、女子の91.1%を占めた。

小4男子

- 「あまり深刻な相談はしない」42.7%
- 「お互いに張り合う気持がある」31.5%

友だちとの関係は？



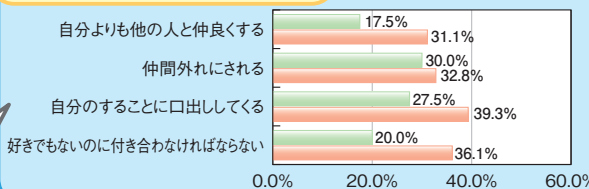
小4女子

- 「悩みごとなどの話を聞いてもらう」42.2%
- 「何も言わなくても分かりあえている」41.2%

小4男子

- 「仲間外れにされる」30.0%
- 「自分のすることに口出ししてくる」27.5%

友だち関係での困りごと



小4女子

- 「自分のすることに口出ししてくる」39.3%
- 「好きでもないのに付き合わなければならない」36.1%

友達と仲良くできているが、たまに話を聞いてくれなかったり、仲間はずれにされる時もある。(小4女子)

もっと、友だちと仲良くなりしたい。信頼できる友だちがほしい。(小4女子)

中学生の友だち関係

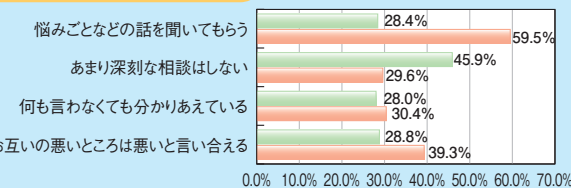
信頼できる友だちはどこで出会った友だち？

男子・女子ともに、「学校の友だち」が最も高く、男子の85.0%、女子の88.6%を占めた。

中2男子

- 「あまり深刻な相談はしない」45.9%
- 「お互いの悪いところは悪いと言い合える」28.8%

友だちとの関係は？



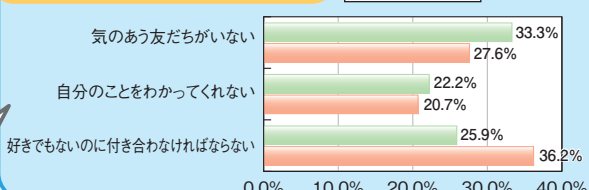
中2女子

- 「悩みごとなどの話を聞いてもらう」59.5%
- 「お互いの悪いところは悪いと言い合える」39.3%

中2男子

- 「気のあう友だちがない」33.3%
- 「好きでもないのに付き合わなければならない」25.9%

友だち関係での困りごと



中2女子

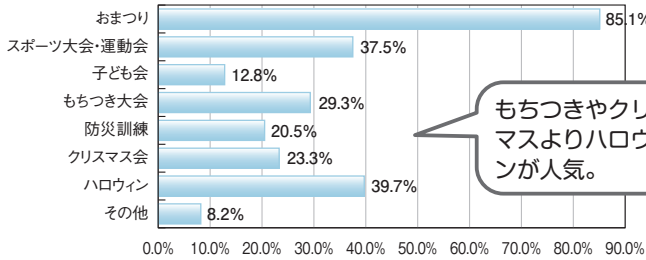
- 「好きでもないのに付き合わなければならない」36.2%
- 「気のあう友だちがない」27.6%

友達がしつこい。いくら言ってもわかってくれない。イヤだと言ってもわからない。(中2男子)

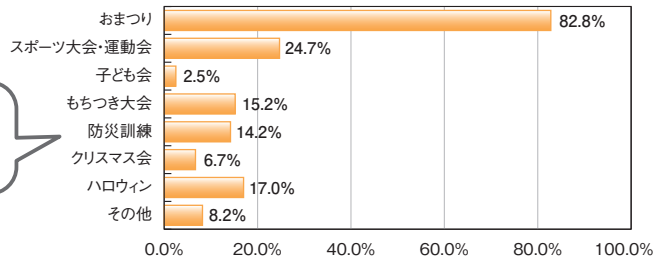
気のあわない友達と無理に一緒にいる。(中2女子)

参加している地域行事は？

小学4年生



中学2年生

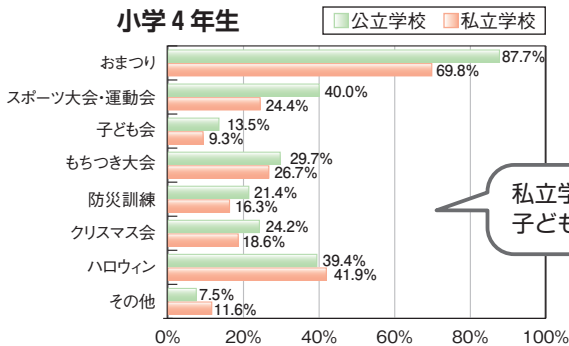


もちつきやクリスマスよりハロウィンが人気。

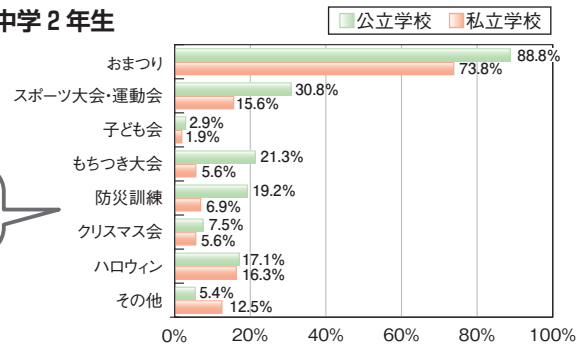
参加している地域行事で最も多いのが、おまつりで85.1%、次いでハロウィンの39.7%、スポーツ大会・運動会が37.5%と続く。

参加している地域行事で最も多いのが、おまつりで82.8%、次いでスポーツ大会・運動会が24.7%、ハロウィンの17.0%と続く。

小学4年生



中学2年生



私立学校に通う子どもの参加が低い。

学校種別（公立・私立）別に見ると、小・中学生とも「おまつり」や「スポーツ大会」「もちつき大会」「防災訓練」などの地域行事への参加が多いのは、公立学校の子どもである。「クリスマス会」や「ハロウィン」についてはその差は小さい。

自由意見

小学校4年生

- 「パパはいつ休めるのか？パパとたくさん遊びたいです。」
- 「自分が、パパ、ママ、先生にどう思われているかが心配。」
- 「遊ぶ場所を増やしてほしい。（ボールが使える広場みたいな）」
- 「遊ぶ時間より、勉強する時間の方が多いので、遊ぶ時間をもっと長くして欲しいです。」

中学校2年生

- 「ほめてほしい。自分がやりたい事はやらせてほしい。（今しか出来ない事があるから）」
- 「テストの成績が悪く、来年の事だが、良い高校に入れるか心配で、親に迷惑をかけたくない。」
- 「中2でも走り回って遊べる場所が欲しい！大人達は外で遊べていうけど私達には遊ぶ場所がないです！」
- 「最近、食欲がないことが多い。寝つけない。習い事に対して、プレッシャーを感じる。よく疲れる。勉強がうまくいかない。」

調査から見た主な課題

課題

〔若者へ移行する子どもたちにとって、日常的な「地域」がない〕

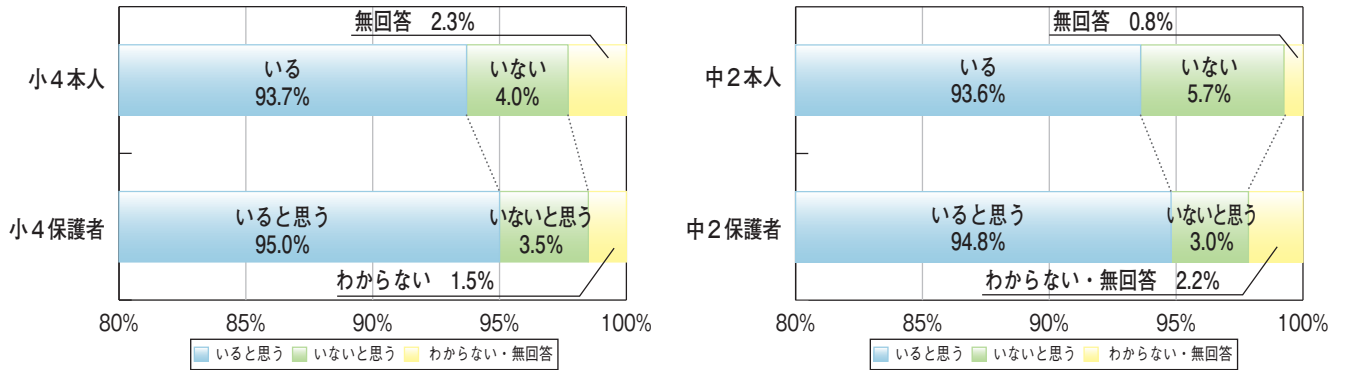
現状

- ・中学生になると、親に悩みを話さなくなるなど発達段階に沿った反応がみられる。
- ・その分、友人との距離が近くなりながらも、気遣いや緊張関係が、友人関係の困りごとの一つになっている。
- ・生活全般に「満足していない理由」にも、「ただなんとなく」としてくすぶっている不満がみられる。
- ・中学生は家庭と学校中心の生活であり、地域との関わりはおまつり程度となっている。

5 小学4年生、中学2年生それぞれの保護者と本人との回答比較

子どもの行動や親子の意識の違いを、子ども本人と保護者それぞれの回答から比較しました。結果は、概ね一致していましたが、一部回答に隔たりのある項目もあります。

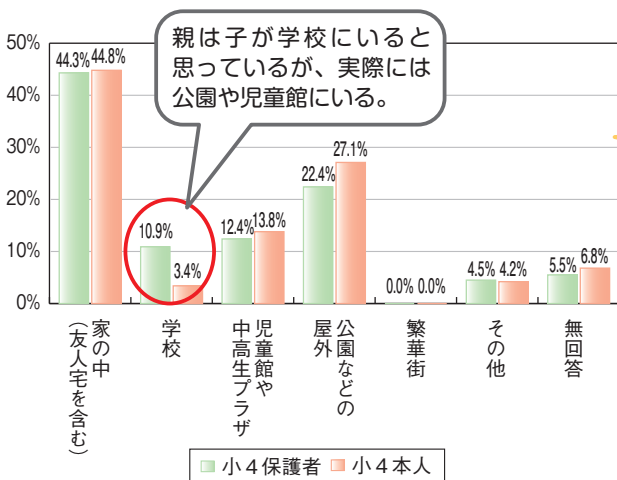
仲の良い友人についての回答比較



仲の良い友人の有無を、子ども本人と保護者両方へ質問したが、その回答はほぼ一致しており、保護者が仲の良い友達を把握していると思われる。

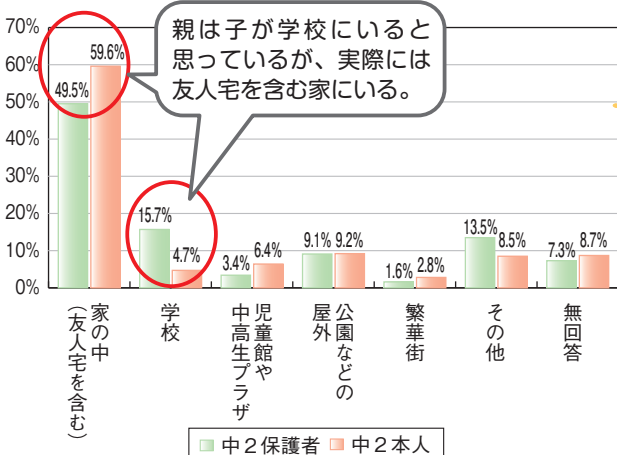
子ども本人と保護者での回答はほぼ一致しており、保護者が仲の良い友達を把握していると思われる。なお、数は少ないが、わからないと解答した保護者の割合が子どもの3倍弱に上っている。

放課後の遊びの場所についての回答比較



親は子が学校にいてと思っているが、実際には公園や児童館にいる。

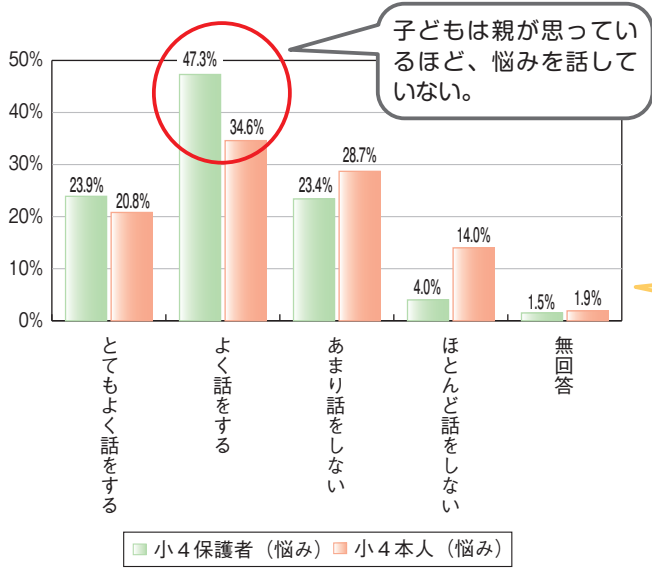
放課後の遊び場所は、保護者、子ども本人とも回答はほぼ一致していたが、学校が遊び場所と回答した保護者が10.9%であったのに対し、子ども本人は3.4%と少なかった。その分、児童館や中高生プラザ、公園などの屋外が保護者より回答が多かった。



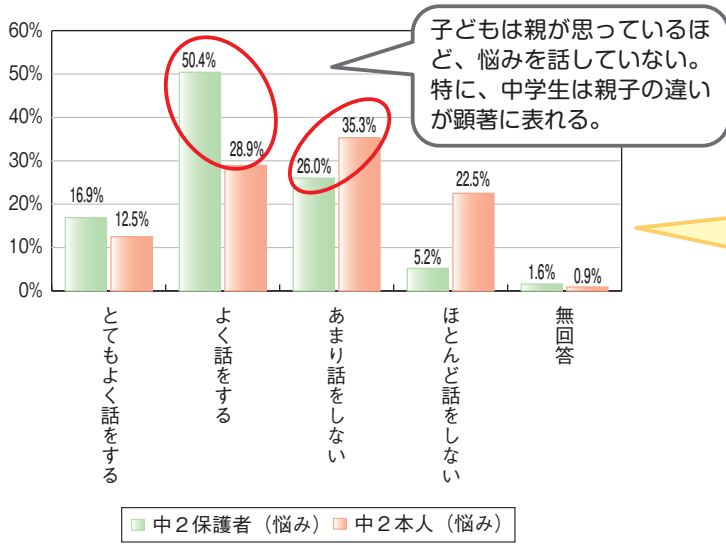
親は子が学校にいてと思っているが、実際には友人宅を含む家にいる。

放課後の遊び場所は、保護者、子ども本人とも回答はほぼ一致していたが、小学生世帯に比べ親子で乖離している項目があった。家の中が遊び場所と回答した保護者は49.5%であったのに対し、子ども本人は59.6%と親よりも多かった。また、保護者は放課後に子どもが学校で遊んでいると思っている割合は15.7%であるが、子ども本人からの回答では4.7%しかいなかった。

子どもが保護者に悩みを話すかについての回答比較

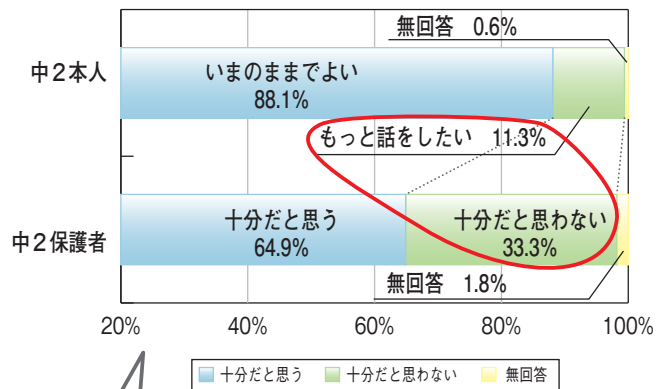
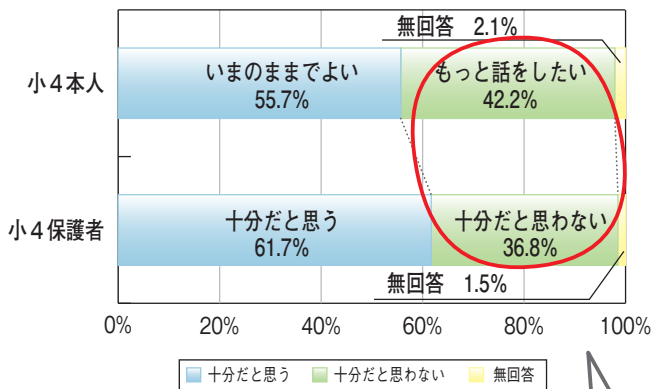


小学4年生の子が、保護者に悩みごとを話すかについて質問した。この中で、よく話しをすると回答した保護者は47.3%であったが、小学生は34.6%と少なく、保護者が思っている以上に悩みを話していない。



中学2年生の子についても、保護者に悩みごとを話すかについて質問した。この中で、よく話しをするとあまり話をしないとの回答を見ると、保護者はよく話しをすると思っているが、子ども本人は、あまり話をしないと答えている。

親子の会話の時間についての回答比較



小学生は保護者以上に、もっと話したいと思っているが、中学生は、保護者ほど、会話をしたいとは思っていない。

刊行物発行番号 25236-5811

港区における
子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査報告書
【概要版】

平成26年（2014年）2月発行
発行 港区政策創造研究所（港区企画経営部）
東京都港区芝公園1-5-25
電話 03-3578-2111（代表）